

# 食品等流通合理化の先進事例① 食品等流通合理化計画の認定（株式会社クラハシ）

食品等流通合理化事業の内容：流通の効率化・品質管理及び衛生管理の高度化・情報技術その他の技術の利用  
食品等流通合理化計画の認定：2019年3月（支援内容：A-FIVEによる出資）  
実施主体：株式会社クラハシ（広島県福山地方卸売市場の水産物卸売業者）  
事業実施期間：2019年4月～2024年3月（5年間）

## ①活魚の備蓄・効率配送プラットフォーム構築事業



集荷後、低塩分飼育水を用いた水槽で備蓄し、魚体の活性化や生存力の向上を実現。

CO2麻酔コンテナで輸送し、身焼け防止や長距離輸送を実現するとともに、収容効率を最大3倍向上。

IOTやセンシング技術により、輸送途中の酸素濃度管理等のトレース管理・情報共有（実用化後導入）

【共用】  
自社だけでなく、中国四国地域の卸売業者や漁協、量販店・外食にもプラットフォームを提供し利用料を徴収

【効果】  
➤ 備蓄による供給量と魚価の安定   ➤ 商品の高付加価値化、遠方への販路拡大   ➤ 活魚輸送のコスト低減

## ②鮮魚仕分けセンターのプラットフォーム化

- 福山地方卸売市場の隣接地に閉鎖型、多温度帯管理が可能な仕分け場を整備。
- 自社だけでなく、量販店や地場物流業者の仕分け場としても共同利用。
- RFIDを活用した入出庫管理システムを導入し、入荷、検品、出荷等の工程を効率化。

## ③高付加価値商品の効率的陸上養殖事業

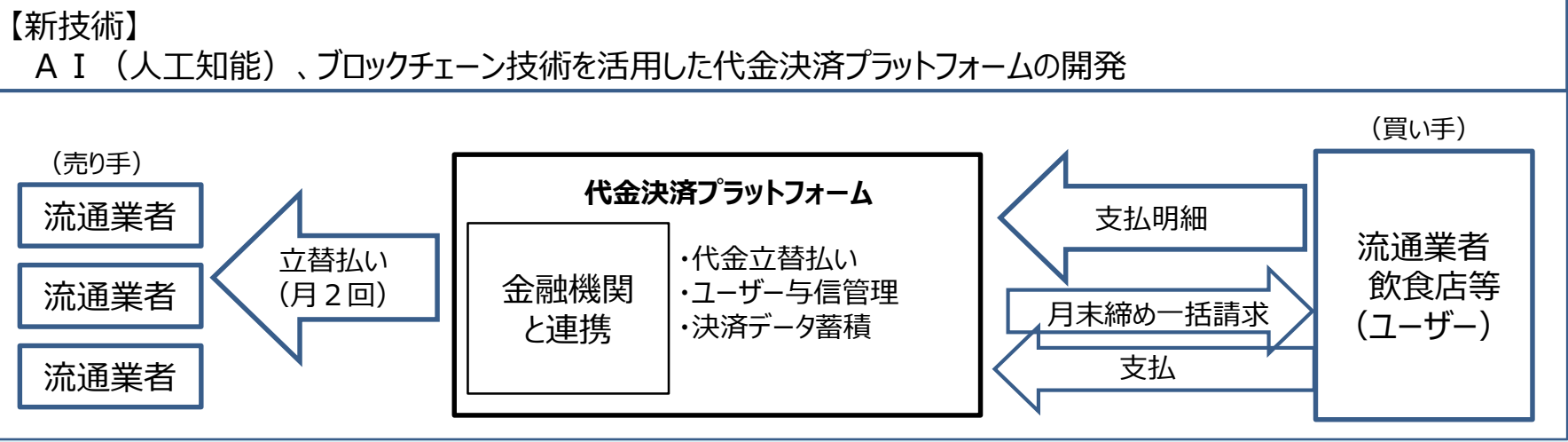
- 福山大学と連携し、市場価値の高い20cm以上のテッポウギスを沖縄県伊平屋島で陸上養殖。
- 水温、餌、酸素量等を一元管理する設備環境保存管理システムを導入し、養殖指導と出荷管理を効率化。（通常2～3年のところ1年で出荷）
- 他地域の漁協にも導入し利用料を徴収。

# 食品等流通合理化の先進事例②

## 食品等流通合理化計画の認定（株式会社いずみホールディングス）

食品等流通合理化事業の内容：その他食品等の流通の合理化のために必要な措置  
食品等流通合理化計画の認定：2020年3月（支援内容：A-FIVEによる出資）  
実施主体：株式会社いずみホールディングス（立替払いによる決済サービス事業）  
事業実施期間：2020年2月～2023年1月（3年間）

### 食品等流通事業者向け代金決済プラットフォームの開発と利用者拡大



【共用】  
食品等流通業者間の代金決済の立替え払い機能を有する決済プラットフォーム

- 【効果】
- 2023年までに食品流通業者3,000社以上にシステム導入を見込む。
  - 食品等流通企業のキャッシュフローの改善、事務作業の効率化等のコスト削減効果により企業体力が向上する。
  - リアルタイム納品データ共有、未入金データ管理、修正伝票の記帳、請求書一括発行等のペーパーレス化対応。
  - 消費者に対し食品等の品質を落とすことなくより安い価格で提供が可能となる。

# 食品等流通合理化の先進事例③

## 食品等流通合理化計画の認定（株式会社農業総合研究所）

食品等流通合理化事業の内容：流通の効率化・情報通信技術その他の技術の利用・国内外の需要への対応

食品等流通合理化計画の認定：2020年10月（支援内容：A-FIVEによる出資）

事業実施主体：株式会社農業総合研究所（農産物卸売業）

事業実施期間：2020年12月～2025年8月

### 「農家の直売所」事業の物流面（物流プラットフォーム）の強化

- 大規模出荷にも対応できる物流加工センターを東日本エリアと西日本エリアに設置
- 大規模出荷にも対応できるように袋詰め等の加工業務を自動化
  - ・直売コーナー用に生産者が行っていた袋詰め、ラベル貼り等の加工業務を受託
  - ・需要予測に基づきスーパーマーケット各店舗に商品を自動振り分け

### 「農家の直売所」事業の情報システム（ITプラットフォーム）の強化

- 精度の高い需要予測ができるように蓄積された過去の出荷・販売データを解析
- スーパーマーケットの既存の青果売場用の卸販売を可能にする需給システムを開発
- 流通全体の効率化を図るため出荷・在庫・販売等のデータを一元管理

【共用】 スーパーマーケットで農産物の委託販売をする「農家の直売所」事業の機能強化

- 【効果】
- 生産者の利便性向上
  - 生産者の収益向上、経営安定
  - 販売率が向上し廃棄ロスを削減
  - 消費者の多様なニーズに対応